

総務省国立研究開発法人審議会 宇宙航空研究開発機構部会（第12回）

1 日時 平成29年11月17日（金）15：00～16：30

2 場所 総務省 1001会議室（10階）

3 出席者

（1）委員（敬称略）

梅比良 正弘（部会長）、水野 秀樹（部会長代理）、知野 恵子（以上3名）

（2）専門委員（敬称略）

入澤 雄太、小塚 莊一郎、藤野 義之、藤本 正代（以上4名）

（以上6名）

（3）国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

坪井理事、筒井経営推進部次長

（4）総務省

翁長宇宙通信政策課長、中谷宇宙通信政策課衛星開発推進官

4 議題

（1）宇宙航空研究開発機構の第4期中長期目標の策定について

（2）宇宙航空研究開発機構の第4期中長期目標（案）について

（3）その他

開 会

【梅比良部会長】 それでは、ただいまから総務省国立研究開発法人審議会宇宙航空研究開発機構部会第12回を開催させていただきます。

本日は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

初めに、本日の会議の出席者につきまして、委員3名中3名が出席しておりますので、定足数を満たしていることをご報告いたします。

それでは、事務局から配付資料の確認をお願いいたします。

【中谷推進官】 事務局でございます。

配付資料につきましては、議事次第に記載しておりますので、ご確認いただければと思います。

参考資料につきましては、お手元のタブレット端末内がございますので、必要に応じてご参照いただければと思います。資料の不足等ございましたら、事務局までお願いいたします。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございました。

それでは、お手元の議事次第に従いまして議事を進めてまいりたいと思います。

議 事

(1) 宇宙航空研究開発機構の第4期中長期目標の策定について

【梅比良部会長】 まず、議題1、宇宙航空研究開発機構の第4期中長期目標の策定についてでございます。

本件につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

【中谷推進官】 資料1をご覧くださいと思います。まず、上半分で第4期中長期目標策定に関する今後の流れをご説明させていただきます。

本日、11月17日、総務省の国立研究開発法人審議会のJAXA部会でございます。主務大臣として中長期目標の原案を提示させていただき、その内容について、本日及び12月8日の部会においてご議論いただければと思っております。

その結果を12月20日の親会上げまして、中長期目標の原案に対する意見を取りまとめさせていただきます。そのご意見を主務大臣として承りまして、それを踏まえまして、中長期目標の案を決定いたしまして、独立行政法人評価制度委員会に提示いたします。この評価制度委員会から中長期目標案に対するご意見をいただきまして、来年の2月末までに中長期目標を決定いたしまして、JAXAに指示するという流れになります。

その後、JAXAから主務大臣に対して中長期計画の認可申請が行われ、主務大臣として3月末までに中長期計画の認可を行うという手順でございます。

この中長期目標に添付すべき資料が下半分に書いてございます。

本文のほか、政策体系図(案)を資料3に示してございます。こちらは国の政策体系におきまして、法人の業務がどのように位置付けられているかを明らかにした資料でございます。

また、評価軸といたしまして、本日は原案という形で資料4に提示させていただいております。こちらは、研究開発の事務及び事業を評価するに際しまして重要な視点であり、それぞれの目標に応じて設定した評価軸を基本として評価するためのものでございます。

その下については、後ほど資料4の説明のときにご説明させていただきます。

2枚目に付けている紙は、私がただいまご説明いたしました事項の法律や指針における根拠条文を記載しております。

説明は以上でございます。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございました。

それでは、資料1につきまして、ご質問、ご意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

(2) 宇宙航空研究開発機構の第4期中長期目標(案)について

【梅比良部会長】 特に質問ないようでございますので、続きまして、議題2の宇宙航空研究開発機構の第4期中長期目標(案)につきましてでございます。

事務局から本件につきまして、説明をお願いいたします。

【中谷推進官】 資料2、資料3、資料4及び机上配布資料1を使いまして、ご説明させていただきます。

本日ご議論いただきたい主な点は、資料2の中長期目標の原案でございます。その位置

付けをまず資料3、4、机上配付資料1でご説明させていただきたいと思います。まず、資料3をご覧ください。

先ほど申しましたように、中長期目標に添付すべき書類として、この政策体系図というものがございます。こちらで中長期目標の構成に係る部分をご説明させていただきます。

まず、左上でございますけれども、宇宙基本法に基づきまして閣議決定しております宇宙基本計画がございます。こちらで政府の方針といたしまして、目標を3つ定めております。宇宙安全保障の確保、民生分野における宇宙利用の推進及び宇宙産業、科学技術の基盤の維持・強化という目標を定めております。

そのほか、右側でございますけれども、科学技術基本法及び計画がございまして、その下に、文部科学省の審議会といたしまして、科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会におきまして、航空分野における方針が定められております。

これら4つの柱をもとに今般の中長期目標の原案を作成したというところでございます。続きまして、資料4でございます。

こちらは、評価軸等についての素案を示させていただいているところでございます。後ほどご説明いたします中長期目標の原案の項目が左にございます。真ん中の列が評価軸でございます。この軸に沿って評価をしていただくというところでございます。

その右が、関連する評価指標、モニタリング指標でございます。こちらは少し補足をさせていただきますと、評価指標というのは、先ほどの資料1の下半分に書かれておりますけれども、評価や評定の基準として取り扱う指標でございまして、マネジメント等に係る指標と成果に関する指標がございます。下半分のモニタリング指標でございますけれども、こちらは、正確な事実を把握して、適正、厳正な評価に資するために必要な指標ということで設定させていただいております。こちらにもマネジメントに関する指標と成果に関する指標がございます。

なお、こちらの評価項目、評価軸、評価指標でございますけれども、現在、全体としてこのような評価軸及び評価指標を関係府省で協議しているところでございまして、次回の部会までにはもう少し紐付け紐付けした資料としてご準備させていただきたいと思っております。本日はまず、大枠としてこのような指標で適正な評価が図れるかという観点で、ご意見をいただければと思っております。

続きまして、机上配付資料1でございます。

本日、中長期目標の原案は大部でございまして、まず、その構成をご説明させていた

だきたいと思います。

左側に宇宙基本計画の記載がございます。右側に今般、ご審議いただきます中長期目標の原案の目次がございます。宇宙基本計画の4ポツに関するところが今般の中長期目標の原案に対応するところがございますけれども、まず、基本計画の(1)で、宇宙政策の目標達成に向けた政策体系ということで、安全保障、民生分野、基盤の維持・強化と先ほどご説明した三本柱がございますけれども、これに沿う形で中長期目標の原案としては政策体系を振り返っております。

基本計画の(2)の具体的な取組でございますけれども、こちらは①、②、④に該当する宇宙プロジェクトの実施方針というものが定義されておりますので、これに沿う形で右側の中長期目標の原案で項目を整理しております。

ただ、必ずしも1対1に対応していない部分がございます。例えば左側の①のVI、VIIの項目につきましては、中長期目標では1.6でまとめております。また、左側のIX番の宇宙科学・探査及び有人宇宙活動でございますけれども、こちらにつきましては、中長期目標では宇宙科学探査、国際宇宙ステーション、国際有人宇宙探査及び環境試験技術というふうに分類しております。

こちらが基本計画と中長期目標の対応でございます。

それでは資料2に戻っていただきまして、現在の中長期目標の原案の内容の概略を説明させていただきたいと思います。

まず、2ページ目、3ページ目が目次でございます。4ページ目から本文が始まってまいります。

I番につきましては省略させていただきます。柱書きです。

4ページ目から5ページ目にかけては、政策体系について書いてございます。こちらは、繰り返しになりますけれども、宇宙基本計画において、我が国の政策の目標として3つが掲げられており、これをベースに本目標が定められているというところがございます。

5ページ目の1.1、安全保障の確保でございますけれども、宇宙におけるデブリの脅威に対処するための研究開発ですとか、国際ルールづくり、宇宙空間の安定的な利用の確保に貢献するという目標が定められております。

1.2の民生利用分野における宇宙利用の推進でございますけれども、JAXAが自ら保有するリモートセンシング衛星等のシステムを活用しまして、地球規模課題の解決に貢献する。また、大規模災害等への対応にも役立てることによりまして、国民生活の向上に貢

献するということを目指しており、一番下でございますけれども、新サービス、新産業の創出に貢献するとしております。

1.3、宇宙産業及び科学技術の基盤の維持・強化でございますけれども、こちらにつきましては、2行目でございますけれども、人工衛星等を利用した新たな国内需要の拡大に貢献して、国際競争力を強化するとともに、政府、民間事業者と連携いたしまして、諸外国と国際連携を拡大するとしております。下2行でございますけれども、ニーズに応えた価値を実現する基盤の維持・強化に貢献するとしております。

2ポツ目でございますけれども、こちらは、宇宙基本計画ではなくて、先ほど申しました文部科学省の審議会において定められた研究開発計画における宇宙科学技術に関する役割が記されております。こちらについては総務大臣及びこのJAXA部会の評価の対象外となりますので、詳細については割愛させていただきます。

6ページ目、IIポツでございますけれども、こちらは、夏から秋口にご議論いただきました中長期目標の期間でございますけれども、次期中長期目標の期間を7年間とするとさせていただきます。

IIIポツでございます。こちらが、宇宙航空政策の目標達成に向けた具体的取組ということでございます。2パラ目でございますけれども、本事項におきましては、各事業を推進するに当たりまして、JAXAが目指す大局的な方向性をまず確認いたしまして、その後、具体的な事業ごとに方向性に沿った目標設定をするというところでございます。

(JAXAの取組方針)ということございまして、こちらでまず、JAXAの取組方針を定めるための環境の変化ということを4つ整理しております。

ざっと概略だけ説明しますと、1つ目の黒丸の下2行でございますけれども、宇宙空間の安定的利用の確保の必要性が一層増しているという環境の変化がございます。

7ページ目に行っていただきまして、我が国の宇宙機器産業は国内官需が大部分を占めているというところでございますので、下3行をご覧くださいますと、オープンイノベーションの仕組みの強化等を通じた研究開発成果の産業界への橋渡しや社会実装に対する期待が高まっていて、これらに対して、JAXAが応える必要性が生じてきているという環境の変化がございます。

3つ目の丸でございますけれども、宇宙科学・探査分野におきましては、中国、インドをはじめとする新興国ですとか、民間企業等の台頭が進んでいるところでございます。このような状況でございますので、引き続き世界一級の研究成果を生み出し続け、プレゼ

ンスを維持することが求められているというところでございます。下2行にも、我が国の国際的プレゼンスを維持することが期待されているというふうでございます。

4つ目の黒丸は、航空科学技術分野でございますので、割愛させていただきます。

8ページ目に行ってくださいまして、「このような」というところでございます。JAXAを取り巻く環境の変化を踏まえまして、具体的政策を引き続き着実に実施するという役割に加えまして、アウトカムを見据えた4つの取組方針を定めますということで、こちらは宇宙基本計画にも沿う内容でございますけれども、「安全保障の確保及び安全・安心な社会の実現」、「宇宙利用拡大と産業振興」、「宇宙科学・探査分野における国際的プレゼンスの維持・向上等」、及び、「航空産業の振興・国際競争力強化」を定めまして、これらの取組方針に関しまして、次の施策を重点的に実行するというふうにしております。こちらにつきましては、個別プロジェクトのところでも細かく出てきておりますので、9ページに行ってくださいましたらと思います。

ここからが、具体的に来年度以降評価をしていただく単位になりますので、1つずつぎっとなぞっていきたいと思います。

まず、1ポツの宇宙政策の目標達成に向けた宇宙プロジェクトの実施ということで、1.1が衛星測位でございます。こちらにつきましては、2行目でございますけれども、世界的な技術の発展ですとか、政府、民間の海外展開ニーズを踏まえまして研究開発を行うとしております。これによりまして、我が国の測位システムの高度化、高精度測位情報配信サービスの実現に貢献するとしております。

1.2の衛星リモートセンシングでございますけれども、10ページ目に行ってくださいまして、上から2行目になお書きでございますけれども、リモートセンシングのうち、海洋状況把握と早期警戒機能等につきましては別項で目標を定めております。本項では、安全・安心な社会の実現に向けた防災・災害対策において衛星を利用するという事。このパラグラフの4行目でございますけれども、国土管理及び海洋観測に資する衛星データの利用を促進する。このパラグラフの下から2行目ですけれども、相互支援・互惠関係の構築に貢献するとしております。

次の「また」のパラグラフでございますけれども、2行目に気候変動関係の衛星データの提供を行う。次のパラグラフ、産業振興及び公共的な衛星利用分野の拡大に資するための3行目あたりでございますけれども、衛星データの処理、分析等に係る研究開発を行い、衛星データの利用を促進するとしております。なお書きのところでございますけれども、

政府、民間事業者と連携いたしまして、幅広い産業での利用を見据えて、ビッグデータとして適切に管理、提供を行うとしております。

1.3、衛星通信でございます。こちらにつきましては、先進的な研究開発を行うということで、JAXAとしては宇宙産業の振興の観点から、次世代の通信衛星バスの研究開発及び実証を行うというふうにしております。「また」の параグラフでございますけれども、安保への貢献、産業の振興への貢献を目指しまして、データ伝送の秘匿性向上を念頭に光衛星間通信技術の研究開発、実証を行い、大容量のデータ伝送を実現するとしております。

1.4でございます。宇宙輸送システムでございます。我が国が必要とするときに、11ページ目でございますけれども、必要な人工衛星等を自立的に宇宙空間に打ち上げるために必要な手段であるということで、宇宙輸送能力を切れ目なく保持するとしております。

次の параグラフでございますけれども、現行のH-IIA、H-IIBにつきましては、世界最高水準のオンタイム打ち上げ率を維持しつつ、国内外の衛星打ち上げ需要に確実に対応するとしております。「さらに」でございますけれども、2行目でございますように、打ち上げ費ですとか、設備維持費が安価なH3ロケットを開発するとともに、この параグラフの下から3行あたりにございますけれども、このH3ロケットの開発と並行いたしまして、我が国の宇宙輸送技術の継続的な向上のための研究開発を推進するとしております。

また、次の параグラフの戦略的技術として重要な固体燃料ロケット、イプシロンロケットにつきましては、着実な打ち上げを続けるとともに、H3ロケットとの部品の共有、共通化等、シナジー効果を発揮する開発、実証を行うとしております。

1.5の宇宙状況把握及び追跡運用技術でございます。2パラ目に、宇宙状況把握についての記載がございます。こちらにつきましては、中ほどにSSAとございますけれども、宇宙状況把握(SSA)システムに関しまして、能力向上に向けた研究開発を行うとしております。

また、12ページに行っていただきまして、追跡運用技術等につきましては、アンテナ等の施設設備の維持・運用によりまして、確実なミッション達成に貢献するとしております。「また」という параグラフでございますけれども、必要とされる無線局については、周波数利用の規則に基づきまして、許認可を確実に取得するとしております。

1.6の海洋状況把握・早期警戒機能等でございます。これは先ほどの1.2のリモセンの項目から外出しされている項目でございます。2パラ目の宇宙状況把握でございますけれども、こちらの3行目でございます船舶自動識別装置(AIS)に係る研究開発、運用

を通じまして、状況のより詳細な把握に貢献するとしております。

次のパラグラフの早期警戒機能につきましても、安全保障機関等と連携して、研究開発等を推進するとしております。

1.7、宇宙システム全体の機能保証でございます。こちらは、射場や即応型小型衛星等のあり方を含めまして、政府の検討を技術的に支援するとしております。「また」でございますけれども、JAXAが保有する宇宙システムの脆弱性評価を行うとともに、その結果を踏まえた必要取組を進めるとしております。

1.8の宇宙科学・探査でございます。こちらは、2行目、右側でございますけれども、革新的・萌芽的な技術の獲得を通じまして、新たな宇宙開発利用の開拓を目指し、我が国のプレゼンスの維持・向上に貢献するとしております。

13ページに行ってくださいまして、次のパラグラフの宇宙科学・探査ミッションの遂行及び研究につきましても、大学共同利用システムを通じたボトムアップを基本としつつも、長期的な視点に立って戦略的に成果が得られるようプログラム化を行うとしております。なお書きでございますけれども、長期的な視点での取組が必要であることから、人材育成を積極的かつ継続的に確保するとしております。「また」でございますけれども、社会還元に努めるとしております。

1.9の国際宇宙ステーションでございます。こちらにつきましても、上から4行目の、「今後は」とございますけれども、民間事業者を含む多様なプレーヤーによる有人宇宙活動が拡大していく方向性を踏まえまして、イノベーション創出、産業振興、国際競争力のある有人宇宙技術の獲得により、国際的なプレゼンスの維持・向上に努めるとございます。

次のパラグラフ、JEM「きぼう」でございますけれども、こちらは、微小重力環境での実験機会を利用しまして、科学的・学術的成果の創出を促進するとともに、我が国の国際的プレゼンスの維持・向上を図る。また、科学技術イノベーションを支える研究開発基盤として産学官で幅広く利用される姿を実現するとございます。次のパラグラフの、これらの取組を通じまして、「きぼう」利用者サービスが民間等の事業として自立することを目指す。次のパラグラフのISS補給機（HTV）「こうのとり」でございますけれども、こちらを高度化させまして、ISSへの輸送能力の向上、コスト低減を実現するとしております。

おめぐりいただきまして、14ページ目でございます。こちらは国際連携でございますけれども、3行目、右側でございますように、アジア諸国や国連等からの高い評価を獲得

するとともに、日米オープン・プラットフォーム・パートナーシップ・プログラムに基づきまして、成果の最大化を図るとしております。

1.10、国際有人宇宙探査でございます。こちらにつきましては、国際宇宙探査にて我が国が重要な役割を担うことを目指すとしているところでございます。

1.11、環境試験技術でございます。2行目でございますけれども、環境試験を着実に実行することで、確実なミッション達成に貢献する。下2行でございますけれども、培った環境試験技術の他産業への展開ですとか、技術・設備の利用拡大・社会還元を図るとしてしております。

2ポツが横断的な取組でございます。

2.1でございます。民間事業者との協業等の宇宙利用拡大、産業振興に資する取組でございます。2行目でございますけれども、協働で研究開発を推進するですとか、宇宙関連技術と非宇宙分野の技術を融合したオープンイノベーションに係る取組を通じまして、宇宙分野に閉じることのない技術革新を目指すとしております。「また」でございますけれども、社会還元を促進するということですので、おめくりいただきまして、15ページ目でございます。ベンチャービジネス等の新たな事業の創出を実現する。これらの取組に資することも考慮しまして、JAXAの知的財産がより一層活用されることを目指すとしております。「さらに」でございますけれども、2行目でございます。民間事業者が行う宇宙ビジネスへの各種支援等を通じまして、広く産業の振興に貢献するとしております。

2.2でございます。新たな価値を実現する宇宙産業基盤・科学技術基盤の維持・強化でございます。デブリですとか、宇宙太陽光発電を含むとしております。こちらは、具体的な話といたしましては、2パラ目の「また」でございますけれども、宇宙太陽光発電システムですとか、液化天然ガス（LNG）推進技術の研究開発に取り組むとしております。「さらに」といたしまして、先進的な技術や民生品の宇宙システムでの利用拡大を図るとしてしております。また、次のパラグラフの右側でございますけれども、ユーザへの研究開発成果の橋渡しを意識しつつ、新人工衛星システムの検討、企画・立案、初期の研究開発や実証を行うとしております。

3ポツにつきましては、航空科学技術ですので割愛させていただきます。

16ページ目でございます。これまで述べました目標を達成するのを支えるための重要な事項ということで、IVポツを整理してあります。

その1ポツ、横断的事項でございますけれども、1.1、国際協力・海外展開でございま

すけれども、(1) 主要な海外宇宙機関との互惠関係を考慮しつつ、高いレベルで構築・維持していくとしております。

17ページ目でございます。「また」でございますけれども、2行目右にございますASEAN諸国等の各国の宇宙利用の拡大や宇宙市場規模の拡大に貢献するとしております。次の「加えて」というパラでございますけれども、法令問題に関する国際的な検討の促進ですとか、国連等での政府の活動を積極的に支援するとしております。

(2) の調査分析でございますけれども、国際的状況が大きく変化していることに鑑みまして、国内外の動向調査、分析機能を強化いたしまして、政府等に調査分析情報や提言を積極的に提供・発信するとしております。

1.2、国民の理解増進等でございます。(1) でございます。3行目にございます即時性・透明性・双方向性等を意識して、丁寧で分かりやすい情報発信を行うことによりまして、国民への説明責任を果たすとともに、一層の理解を増進するとしております。

(2) 人材育成でございます。3行目でございますけれども、宇宙航空分野における興味関心を抱く機会の積極的提供、研究開発を通じて得た成果・知見の教育素材としての幅広い活用をはじめとする取組を行いまして、未来社会を切り開く人材育成に貢献するとしております。

1.3、プロジェクトマネジメント、安全・信頼性の確保でございます。こちらは3行目にございますプロジェクトマネジメント能力の向上を図るとともに、初期的な検討や試行的な研究開発を充実させることによりまして、事業全体におけるリスク軽減、効果的事業創出、確実なミッション達成に貢献するとしております。「なお」でございますけれども、計画の大幅な見直し、中止、ミッションの喪失等が生じた場合には、徹底した原因究明を行い、その後、再発防止に努めるとしております。「また」でございますけれども、安全・信頼性の維持・向上に関する取組を行いまして、事業の円滑な推進、成果の最大化、国際競争力強化に貢献するとしております。

1.4でございます。(1) 情報システムの活用でございますけれども、共通的に利用する情報システムの整備、改善及び事務的な業務の効率化と適切な労働環境の維持・向上に貢献するとしてございます。また、JAXAが保有するデータを外部と共有するための基盤的な情報システムの整備、改善、利用促進によりまして連携を図っていくとしております。

(2) セキュリティの確保でございます。こちらは、政府機関の統一基準群に沿ったJAXAのポリシーに基づきまして、政府の戦略本部が実施する監査における助言等を踏

まえつつ、対策を推進、強化するとしております。

1.5、施設、設備に関する事項でございます。こちらにつきましては、2行目でございます。計画的な更新・整備と維持運用によりまして、事業の円滑、効率的な推進に貢献するとしております。

19ページでございます。2ポツ目、情報収集衛星に係る政府からの受託につきましては、受託した場合には必要な体制を確立し、着実に実施するとしております。

3ポツ、法人共通ということで、3.1、内部統制でございます。理事長のリーダーシップのもと、JAXA特有の業務を勘案した内部統制システムを構築し、確実に運用する。また、PDCAサイクルを効果的に循環させるとしております。「特に」でございますけれども、不正行為及び研究費の不正使用を未然に防止する効果的な取組を推進するとしております。

3.2、人事でございます。2行目でございます。JAXA内の積極的な人材育成等のマネジメントを行うことにより、社会を技術で先導し、新たな価値を創造する組織の基盤を形成する。また、労働環境を維持・向上させ、生産性向上に貢献するとしております。

V番でございます。業務運営の改善・効率化に関する事項でございます。こちらは、業務を円滑に遂行し、成果の最大化を実現するために以下の取組をするとしております。

(1) が組織体制の整備でございます。2行目でございます。JAXAの総合力の向上を図ることで、社会に対して新たな提案を積極的に行い、社会を技術で先導し、新たな価値を創出する組織となることを目指すとしております。

(2) 効果的、合理的な業務運営の推進でございます。20ページ目でございます。競争的資金の獲得ですとか、外部機関との連携強化等を通じた外部資金の獲得に係る取組を強化するとともに、効率的な運用の追求、業務・経理の合理化を図るとしております。

(3) 人件費の適正化でございます。こちらの2行目でございます。業務の特殊性を踏まえた的席な水準を維持するとともに、検証結果、取組状況を公表する。さらに、適切な人材確保のために弾力的な給与を設定するとともに、国民に対して理解が得られるよう、丁寧な説明に努めるとしております。

最後、VIポツでございます。財務内容に関してでございますけれども、2行目でございます独立行政法人会計基準を踏まえた適切な財務内容の実現を図り、財務状況の積極的な開示を行い、国民の理解増進に貢献する。また、必要がなくなった保有資産は適切に処理し、重要な財産を譲渡する場合には計画的に進めるというところでございます。

雑駁な説明でございましたけれども、中長期目標の原案に関する説明は以上でございます。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございました。これが今日、一番大事な課題になりますので、よろしく願いいたします。

それでは、JAXAから何か補足説明事項があればよろしく願いします。

【JAXA（坪井）】 特に補足する事項はございません。

【梅比良部会長】 よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、委員、専門委員の皆様から、資料2から4、先ほどご説明いただきました中長期目標の20ページの資料と、それから、資料4、モニタリングとか評価指標の資料、この3つの資料につきまして、ご審議、質疑、ご意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。

では、私のほうからですけれども、今回の資料を見せていただくと、結構オープンイノベーションというキーワードがいろいろなところに少し散りばめられているようなんですけれども、これと評価指標とかモニタリング指標との関係というのはどういうふうな格好になるのか、教えていただければと思うんですけれども。

【中谷推進官】 ご質問ありがとうございます。こちらにつきましては、例えばでございますけれども、モニタリング指標の中で、外部の政府系機関との連携数ですとか、民間事業者との連携数、大学との連携数、海外機関との連携数といった指標で評価をしていただけるものと考えております。

また、モニタリング指標の成果指標に関しましても、外部へのデータ提供数がございますし、宇宙実証機会の提供数といった、外部連携に関する様々なモニタリング指標で評定に役立てていただけると考えているところでございます。

【梅比良部会長】 分かりました。では、成果指標とは直接関係してこなくなるんですね。マネジメントとか、モニタリング指標もそうですけれども、基本的にはやり方の問題なので、直接の成果とは関係しないけれどもという理解なので、成果指標とは直接は関係しないという理解でよろしいでしょうかというご質問です。

【翁長宇宙通信政策課長】 やり方ももちろんありますけれども、もちろんこれらの紐付けについては、今、これは素案になっておりますので、この項目について、どの評価軸を使って、どの指標をやるかというのはまたこれから議論して適用していきたいと思っています。

【梅比良部会長】 分かりました。

【翁長宇宙通信政策課長】 特に資料4の裏を見ていただきますと、新たな事業を創出するということもございますので、やり方だけではなくて、その結果についてもやはり評価していくことになろうかと思えます。

【梅比良部会長】 分かりました。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。よろしく申し上げます。

【知野委員】 資料4の評価軸ですけれども、例えば宇宙科学探査に関しては、国際的プレゼンスの維持・向上等とありますが、これは基本的に国際的プレゼンスを出したか、出さないかとか、そこのところで見ようということなのでしょう。

というのは、中長期目標の中を見ても、国連などから高い評価を獲得するか、国際有人宇宙探査では、我が国として提案するか、何かそれなりに目立つことをして、国際的に目立つことをしたという、そこが評価軸になるということなのでしょう。

【翁長宇宙通信政策課長】 ご指摘のとおりだと思っています。目立つというのはちょっとあれかもしれませんが、何か国際的に評価をいただくというのは大事な視点だと思っておりますので、日本の実験等も含めて、そういう評価をいただくというのは重要なことではないかという意味で、評価軸の案として記載しております。

【知野委員】 ということですね。ただ、一般国民側からすると、国際的に目立ったか、目立たなかっただけではなくて、やはりそれが次の世代にとって、どれだけ重要性があるものかとか、科学の可能性を広げたとか、いろいろ評価軸があると思いますが、そういうものではなくて、こっちのプレゼンスのほうだということなのでしょう。

【翁長宇宙通信政策課長】 いえ、もちろんご指摘いただいた点も非常に重要な点だと思っておりますので、そういう視点では、上のほうには、例えば宇宙利用の拡大と産業振興とございます。そういった形できちんと宇宙利用の拡大が図れたのか、産業の振興ができたのか、あとは人材育成の点もあると思います。そういったものももちろん重要視はしていくことは必要かと思っております。

【知野委員】 そうですか。分かりました。

それで、例えばここで国際有人宇宙探査計画を我が国として提案するというふうにあるのですけれども、これは、提案するということは、つまり財政的裏づけとか、やはり技術的なものとか、何かいろいろな判断が必要だと思うのですが、それはなされたとお考えですか。それがなされているから、JAXAとしては有人宇宙探査をみずから提案するとい

うことなのでしょう。

というのは、その前に審査するとか、国として判断するとか、いろいろな裏づけがないと、こういう大きな計画というのはやれなくて、提案しただけに終わってしまう可能性もあるのではないかというふうに考えますので、その辺の見通しとか、実施性とか、そのあたりをご説明いただけたらと思いますが。

【JAXA（坪井）】 これは政府のほうの文章ですので、もしかしたらこれは文科省が中心となって書かれているので、政府間の主務大臣の間では今、この案文で提案されているので、文科省のほうで了解した上でこの案が出ているんだと理解しております。

我々は示された上で、JAXAとしてはそれに対応していくことになります。

ただ、この括弧の中に書いてある来年の3月のISEF2の状況を踏まえてということも含まれていると理解しております。

【翁長宇宙通信政策課長】 ご指摘のとおり、予算のめどが立っているのかという点は、予算は単年度主義のところもありますし、今の時点で、本当にそれなりの予算がちゃんと確保できるのかと問われると、それはこれから頑張りますとしか、政府としては言いようがなく、そこは文科省さんも一緒の立場かというふうには思います。

ただ、目標としてはこういう形で掲げさせていただけないかというふうに考えているところでございます。

【梅比良部会長】 よろしいでしょうか。

【知野委員】 はい。

【梅比良部会長】 ほかにございますでしょうか。よろしく申し上げます。

【水野部会長代理】 12ページの1.6、海洋状況把握・早期警戒機能等とあるんですけども、この早期警戒機能というのは、いわゆる海洋の早期警戒でしょうか、それともいわゆる防衛省でお使いになっている陸海空の、それに対する早期警戒ということをおっしゃっているのでしょうか。

【JAXA（坪井）】 これは宇宙基本計画からの引用ですので、海に限らないと理解しています。

【水野部会長代理】 そういうことですか。海に限らないというと、結構大変なことですけれども、それは一応理解した上での記述。

【JAXA（坪井）】 今、それを政府の中で。ここはわりと内閣府が宇宙基本計画の中に書いてあることは、JAXAとしてなるべく実施してほしいという気持ちの中で書かれ

ていると思います。

【水野部会長代理】 ある意味防衛省というような言葉が2カ所ぐらいにあったかと思う。それはそれで結構かと思うんですけども。

【JAXA（坪井）】 まさに冒頭のところに、防衛省はじめとする安全保障機関ということと理解しております。

【水野部会長代理】 相互で認識を合致させた上で進めていただくということでご質問させていただきました。

それから、次の13ページの1.9なんですけれども、第1パラグラフのお尻から3行目あたりに、有人宇宙技術の獲得という表現があるんですが、これは第3期にはなかったような気がするんですけども、ありましたでしょうか。

出ては消えという言い方は変ですけども、有人については、まだ時期尚早だとか、米国の技術をとというような話で。いや、第4期で有人を目指してやりましょうということであれば、大いに結構ですけども。

【翁長宇宙通信政策課長】 第3期のときにこういう書きぶりだったかどうか、定かにはすぐに出てこないんですけども、第4期に向けては、有人宇宙については、各国も積極的に取組始めていますので、目標としてこれを掲げさせていただいて、JAXAさんには取り組んでいただきたいという思いでございます。

【水野部会長代理】 分かりました。

あと、最後ですけども、ちょっと細かな話で恐縮ですが、14ページの1.11に環境試験とあるんですけども、これは、いわゆる宇宙環境を模擬した試験ですね。

【翁長宇宙通信政策課長】 はい。

【水野部会長代理】 はい、分かりました。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。お願いいたします。

【藤本専門委員】 資料4の成果指標の2項目に、外部へのデータ提供数という項目があり、国内外の関係機関等への衛星データ提供数という形になっています。全体の構成から、これですとモニタリングのようにも感じるのですが、成果ですと、提供した結果の成果のほうがイメージに合うのんですけども、どういうものをイメージされているのでしょうか。

【翁長宇宙通信政策課長】 ありがとうございます。今、政府全体、民間も含めてです

けれども、議論というか、期待されておりますのは、政府系や研究機関が所有しているデータを積極的に公開して、そこから外部の人がそれを利用して、新しいサービスですとか、新しい事業に役立てていただくというのが政府全体の取組としてあろうかと思っております。

その中でも、宇宙データというのは、結構特殊なデータもあり、なかなか民間の方が使いたいとか、こういうアイデアがあるんだけどもといっても、データの様式自体がちょっと複雑だったりして、すぐに地図データに変換できないとか、そういうこともあります。そういった点で、JAXAさんも膨大なデータを所有しておりますので、それを使いやすい形でご提供いただくようなことに取り組んでいただきたいと思います。

もちろん目標としては、単にデータを出すだけではなくて、ご指摘のように、そのデータを出した後で、それが新しいサービスとか、いろいろつながるのが目標ですけれども、そこから先はちょっと民間の方々の動きもごございますので、当面の指標としては、ちゃんと積極的にデータを出しているのかというところは確認させていただきたいと思っております。

【藤本専門委員】 分かりました。

【梅比良部会長】 ほかにございますでしょうか。お願いいたします。

【小塚専門委員】 幾つかあるのですが、あまり相互に関連がないので、1つずつお答えいただければと思います。

まず、最初に非常に大きなというか、一般的なこととして、第3期の評価をするときに、第3期5カ年の間に生じてきた新しい問題について、JAXAで一生懸命取り組まれても、それを評価する枠がないという議論になり、したがって、次の中長期目標を作るときには、この目標策定時にはなかったけれども、その後出てきて、そして、JAXAとして対応したということをきちんと高く評価することができるようにと、たしか部会長からもご発言があったように思うのですが、今回の目標ではそれはどういう形で受けとめていただいているのでしょうか。

【翁長宇宙通信政策課長】 ありがとうございます。目標につきましては、我々が示す目標に基づいて、JAXAさんが計画を作って執行していただくというのが基本的な姿だと思っております。

当然目標に掲げていないことが出てきたときにも、適切な対応というのは臨機応変に必要なだと思っておりますけれども、その部分については、やはり目標にはなかなか書きづら

いというか、それは評価の仕方のところで、評価の項目のところとかで書く項目なのかと思っておりますので、例えば資料4にある評価軸とか、指標等々のところの議論の中で、また関係省庁とも議論していきたいというふうには思っております。

【小塚専門委員】　しかし、目標を作るときにはそういうふうに言われて、評価をするときには、これは評価としては枠が決まっています、限界があるので、次の目標を作るときに改善しましょうという、いつまでも堂々めぐりになるのです。

できれば、そのときの部会長のご発言もそうだったと思いますが、目標項目のどこかに、中期目標の策定後、要請されるようになった事項については、適時適切に対処することというような抽象的な一文を入れていただいて、そうすると、あとはJAXAが計画で受けとめるときに、それを敷衍して評価にも反映できるということではなかったかと思えます。

【翁長宇宙通信政策課長】　ご指摘ありがとうございます。その方向でご意見を賜りまして、また次の部会等々のときには関係省庁と議論して、反映させていければと思っております。

【梅比良部会長】　当然大きな変更があるときには、ちゃんと文章として見直しはされるんですね。

【翁長宇宙通信政策課長】　もちろんです。

【梅比良部会長】　1回目標決めたから、もうこれだということはないんですね。

【翁長宇宙通信政策課長】　通則法の中でも、目標の変更ですとか、計画の変更の手続きはございますので、もちろん大きなことがあれば。

【梅比良部会長】　当然直す。多分そこまでではなくても、そういうのがあったときに、やはりやったということであれば、ちゃんと評価すべきだと思いますので。その辺は、運用でやるのか、難しいことだと思いますけれども、よろしくお願いします。

【翁長宇宙通信政策課長】　ありがとうございます。

【小塚専門委員】　続いてよろしいでしょうか。

【梅比良部会長】　はい。どうぞお願いします。

【小塚専門委員】　あと2つぐらいあるのですけれども、2番目は、今の点にも関係しますが、我が国の宇宙政策の中で話題になっている問題。1つは、宇宙資源探査、これは有人ではなくて無人の宇宙資源探査。もう1つは軌道上、あるいは、人によって軌道上、軌道外活動といっていますが、そうすると、宇宙資源探査も広い意味ではそこに入るかもしれない。月面ローバーで観測する活動などは、軌道外活動だと思います。

そういうようなことがあって、実態としてはJAXAもそれを支援したり、共同開発したりしていると思いますが、今回の中長期目標案になかなかそれが出ているような気がするのです。

確かに宇宙基本計画を作ったとき、平成28年でしたので、まだあまりそれが基本計画には書かれていないのですが、このことは既に政府としても議論され、宇宙産業ビジョンなどには書かれていることですので、どこかで触れられていたほうがいいのではないかと思います。そのあたりはいかがでしょうか。あとは軌道上活動、事実上、今、走っている話はデブリ除去ですね。JAXAが共同研究開発等で支援しておられるのは。

【翁長宇宙通信政策課長】 確かに資源探査などは宇宙産業ビジョンですとか、最近、総務省としても幾つか基礎研究のようなプロジェクトをやりたいと思っておりますので、資源探査というような言葉も明示できるような形で、また関係省庁と議論していきたいと思えます。

【梅比良部会長】 資源探査というのはリモートセンシングの中に入るわけではないんですか。

【小塚専門委員】 リモートセンシングという言葉は、一般は、確かにいろいろな意味がありますが、今、衛星リモートセンシング法という法律ができておまして、あの中で、リモートセンシングというのは地球を観測することと定義されているのです。ですから、天体の方の資源を探査する活動は、例えば月表面を宇宙機から観測すれば、英語としてはリモートセンシングだと思うのですが、日本の法令、あるいは、政策文書上、リモートセンシングという言葉になじまないのではないかと思います。

【梅比良部会長】 なるほど、分かりました。

ほかにございますでしょうか。続けてお願いします。

【小塚専門委員】 では、最後にもう1つだけ。

何カ所かで、民間事業者などと連携してという言葉が出ております。例えば5ページの1ポツの2、あるいは1ポツの3も同じですが、政府や民間事業者と連携しというところがありまして、連携することはよろしいのですが、JAXAがあまり表に出てきますと、逆に民業圧迫といいますか、民間事業者がやるべきことまでJAXAが担ってしまうと、民間市場が育たないというところもありますので、このあたりは、目標の問題なのか、その評価の仕方の問題なのかは分かりませんが、JAXAの役割というものを民との関係でどのように規定していくことになるのか、少し見通しを伺えますでしょうか。

【翁長宇宙通信政策課長】 ご指摘のように、民業圧迫になっては、ある意味本末転倒になると思っております。ロケットもH-IIA/B、H3、イプシロンと書いてありますけれども、民間の方々でも、今、ロケットの研究開発、実証実験とかに取り組まれていると承知しております。ですので、民業を圧迫するのではなくて、そういう方々とコラボレーションするとか、JAXAさんはやはり宇宙に対しての技術的な知見ですとか、経験も豊富でございますので、そういった新たな人たちが取り組もうとしたときに、JAXAさんが適切に協力する、技術を提供するといったことが我々としては大事だと思っておりますので、そういった形、視点で、民間とのおつき合いとか、そういったことを積極的にやっていただきたいということをいろいろなところで散りばめたとか、そういう視点で書いているつもりでございます。

【小塚専門委員】 それはいずれ評価指標等にもそのスタンスが反映されるということですね。

【翁長宇宙通信政策課長】 そうですね、はい。

【小塚専門委員】 ありがとうございます。結構です。

【梅比良部会長】 よろしいでしょうか。

【小塚専門委員】 はい。

【梅比良部会長】 ちょっと関連してなんですけれども、先ほどリモートセンシングのところのデータの利用という話があって、これは少なくとも、いろいろいっぱい利用していくんですけども、データの管理はやはりJAXAがやるんだというふうにこれは読み取れるんですけども、基本的にはそういう方針でやられるということなんですか。

【翁長宇宙通信政策課長】 JAXAが得ているデータですので、所有権とかの問題もあろうかとは思いますが、そこはデータを管理するよりも、やはりそれなりの費用といたしますか、予算も機器も人員も必要になってくるとは思います。そこも全部、使っていただくのは構いませんけれども、データごと全部どこかに渡して、JAXAはもう知らないというようなことはやはり起こり得ないのかと思います。

【梅比良部会長】 そのところはこういうふうにするのが一番いいのかとちょっと思わないでもないんですけども、ほんとうに積極的に活用してもらおうと思うんだったら、もっとビジネスライクに、もちろんセキュリティー上の問題があるところは、何かやっていけないといけないでしょうけれども。本来JAXAは研究開発機関なので、そういう実運用のところ、しかもデータの管理みたいな話をやるというのは、ほんとうにずっとやっ

ていくのかという気がするんですけども、その辺はどういうふうにお考えですか。

所有権の問題というのは確かに分かります。分かりますけれども、活用してもらったんだつたら、それをどこかでしっかり活用してもらおう人たちにやってもらったほうが、よりよく活用できるんじゃないかという気はするんですけども。

例えばセールスみたいなことはJAXAはなかなかできないですね。

【翁長宇宙通信政策課長】 　ただ、現在のJAXAさんの取組の中でも、データの活用については、公募という形で、パートナーの会社さんを見つけて、そこで彼らがビジネスになるようなスキームをJAXAさんに提供し、お互いの役割分担の中で行っていると理解しております。

そのときに、全てをJAXAさんが行うというのは難しいところもありますので、一定程度は委託先というか、契約先の企業がデータの加工等を行った上で、さらに彼らがビジネスになる部分についてはJAXAさんのデータを利用しながら、彼らのビジネスとして展開していくといったことは既にJAXAさんと民間企業と契約の中で始めているところでございます。

【梅比良部会長】 　と申しますのも、いろいろやはり運営費交付金が削られていって、研究開発経費も厳しいときに、リモセンの話はある意味でビジネスになりそうな話だと思うんです。

例えば研究開発費を、ある意味で稼げるとかというようなことを考えられても、私はいいのではないかと、思ったこともあって、では、どうするのかというのをちょっと思ったりしたものですから。

その辺で大きな話になるので、簡単にはいかないでしょうけれども。

【翁長宇宙通信政策課長】 　そういう意味で申し上げますと、一番最後の20ページでございますけれども、外部資金の獲得のところは、単純に研究開発機関として、例えばJSTさんのようなところから研究費をとってくるだけではなくて、先ほど申し上げたような、データの利活用の面での企業とのコラボレーションでそういった資金を得ていくということは今後、当然起こってくることを考えております。

【梅比良部会長】 　分かりました。

【翁長宇宙通信政策課長】 　ただ、一方でJAXAが得たデータを完全にJAXAが管理も、責任をとらないという言い方は変ですけども、全部完全に渡してしまうと、そこがある意味独占してしまうとか、せつかく国の税金で得たデータですので、やはり広くい

ろいろな人に使っていただく機会というのは私は必要だと思いますので、そこはやはり一定の、国として、JAXAとしての責任でデータを所有しているというか、管理しているというのは一定程度は必要なのか。

もちろん民間の活動を妨げる気は毛頭ございませんので、適切に利用はしていただきたいというふうには思っております。

【梅比良部会長】 分かりました。かなり突っ込んだ、どうも済みません。

お願いいたします。

【小塚専門委員】 ちょっとよろしいですか。今の点は、おそらく、データですので、ライセンスという形で利用させることになります。そのライセンスの条件の設定の仕方の問題だと思うのです。データの性質に応じて、要するに無償、無条件で誰にでもライセンスするもの、それから、そうではなくて、非排他的な条件で民間主体等々に提供するもの、そこにも有償、無償あると思うのです。それから、排他的なライセンス条件のもとに提供するもの。これはおそらく有償という形になるだろうと思います。

それをJAXAの中できちんと体系立てていただいて、こういう種類のデータはこの条件で提供するという形で整理していただくということではないかと思います。

【梅比良部会長】 分かりました。どうもありがとうございます。

お願いします。

【知野委員】 よろしいでしょうか。19ページの人事のところですけども、今、民間企業や、国立大学は、女性の登用をかなりうたっているのですが、JAXAには全然入っていないのですが、何か理由があるのでしょうか。

【翁長宇宙通信政策課長】 特に他意はございません。ご指摘ももっともだと思いますので、ご意見として承りたいと思います。ありがとうございます。

【梅比良部会長】 もうかなりやられているというふうに、前回のときにお伺いしたので。

【翁長宇宙通信政策課長】 第3期のときの報告でもそこは積極的にJAXAさんは既に取り組んでおります。目標にどこまで書くかはありますけれども、ご意見として承りたいと思います。

【JAXA（坪井）】 この点のPRをさせていただくと、実は評価の後に、今年の9月末なんですけれども、女性活躍推進法に基づくえるぼし認定というものの一番高い認定を、独立行政法人としては3法人目ということであつたということで、一応そういった形

で、実態的なところは非常に進めてきているつもりでございます。

【知野委員】 では、こういうところでも言及していく必要があるのではないのでしょうか。

【JAXA (坪井)】 これは目標に掲げるかどうかは主務大臣とかで決めていただければ。

【梅比良部会長】 せっかくですので、ぜひ言及していただければと思います。

ほかにございますでしょうか。お願いいたします。

【藤野専門委員】 9ページのところがやはり気になっていまして、宇宙科学・宇宙探査における国際的プレゼンスの維持・向上という話ですが、どうもやはり見てみると、これは現状維持でよいような印象を見るんですけども、基本、我々が参照すべきは、例えば宇宙基本計画とともに科学技術基本計画できっちり研究開発を推進していきますというところが、重要だと思うんですけども、この辺について、何か印象がもう少し、きっちり書き込んでほしい。

そういう意味では、科学技術基本計画とのクロスという意味で、どういうところがこの行の中に入り込んでいるかというところを教えてほしい。特に2つ、宇宙基本計画というようなばんとって、これに作りがそういうふうになっていますけれども、科学技術という観点で世界のトップをやる。例えばノーベル賞を50年間で何個取るというような話を文科省さんはされていますけれども、そういうところに向かっての、気合いといいますか、気概といいますかというのがあまり感じられないというか、シュリンクしているのではという印象を持たれかねない感じがいたします。

【翁長宇宙通信政策課長】 ご意見ありがとうございます。目標としては高い目標は掲げるべきだと私も思いますので、ご意見賜って、表現というか、目標の内容をまた検討したいと思います。ありがとうございます。

【梅比良部会長】 よろしいですか。

ほかにございますでしょうか。お願いいたします。

【入澤専門委員】 11ページの宇宙輸送システムなんですけれども、いろいろH3とかイプシロンロケットで打ち上げ費を低減するというふうに書いてあるんですけども、資料4のほうのモニタリングとか成果指標のほうに費用削減をしたか、しないか、どのくらいしたかというのは指標には入らないということなんですか。

毎回、評価するときに、オンタイム打ち上げ率とか、それはやっているんですけども、

結局、どのくらいかかったのか、どのくらい削減できたのかというのは、あまり記載がないので、逆に1発で99%で100億かかるより、多分20億円で成功率が70%だったら、多分そちらのほうが、ほかの人たちはいくと思うんです。だから、アトラスとかデルタとか、そちらのほうが多分実用されてしまうのではないかとこのところ、結構具体的に、半分とかそのくらいになるとかというふうな話もありましたけれども、その辺は具体的に記述はしない。目標の設定はしないのでしょうか。

【翁長宇宙通信政策課長】 具体的な数値の目標としては、今の時点では我々としては書かずに、そこは、例えばですけれども、目標を示して、今度JAXAさんが計画を作りますので、その計画のところに入れ込むのか、入れ込まないのかとかという考え方もあるのかと思っております。

最初の方のご質問の指標のところですけども、評価指標についてはご指摘のとおりだと思いますので、評価指標を固めていくときに、その視点も、どれくらいコストダウンできたのかというような点も入れる方向で調整させていただきたいと思います。

【梅比良部会長】 私も後でお聞きしようかと思っていたんですけども、ここで、打ち上げ費用を低減するという話自体はいいと思うんですけども、最終的には、でも、ここに全部書いてあるように、民間事業者による衛星打ち上げサービスへの移行をして、そのときに幾らかかるかという話になるんですね。

そのときに、JAXAがどこまで責任をとれるんでしょうかというところがちょっと、数字を書かれるのもいいと思うんですけども、そのときに、では、JAXAがやったからそれになったんでしょうみたいな話になかなかならないのではないかなと思うんです。

なので、書き方をぜひ工夫していただかないと、おかしなことになる。一般的には、やはりたくさん打ち上げたら、当然安くなる。だから、コストというのは、幾つ受注できたから、このくらいになりましたという話とやはり関係があるので、ただ単に数字をやったというのではなくて、書きぶりをぜひ工夫していただければと思います。

【翁長宇宙通信政策課長】 はい、ありがとうございます。

一方では、今、H3の目標としましては、H2に比べると、やはり開発コスト自体は、どれだけ受注機会が増えて、スケールメリットの視点はあろうかと思っておりますけれども、一定程度の製造コストというのはやはり変わりませんので、その部分についてH2に比べると、H3のほうはやはり下げるといった形で、今、開発に取り組んでいると理解しております。ただ、民間に移行したときに、彼らがどこまでの話になるのかというのは、確かに

JAXAとして責任とれる話ではありませんので、うまく書きぶりであらわしたいと思えます。ありがとうございます。

【梅比良部会長】 ぜひよろしくお願ひいたします。これ自体を掲げるのは非常に結構なことだと思えますので。

ほかにございますでしょうか。お願ひいたします。

【知野委員】 17ページの国民的な理解の増進のところですけども、現行の中期目標は、国民の理解がなぜ必要であるか、ユーザであり、出資者でもある国民の理解が必要だということを不可欠であるというふうに表示していたんですけども、今回はそういう国民的な理解がなぜ必要なのかということがすっぱり抜けて、リアルタイム、双方向性で説明せよということだけが前面に出てきているように感じるんですが、この点をつけ加えることはできないものでしょうか。

というのは、その後の18ページのところでプロジェクトマネジメントの安全性・信頼性のところで、ミッションを損なうことはないような真摯な対応をと求めていますけれども、新たな挑戦への意欲をそぐことがないように留意せよともあります。

これ自体は重要ですけども、やはりまずその第1段階として、国民から付託を受けているんだという、そこの部分が必要ではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

【翁長宇宙通信政策課長】 ご指摘ありがとうございます。ご指摘のとおりだと思えますので、表現ぶり、追記する方向で検討したいと思えます。ありがとうございます。

【梅比良部会長】 ほかはいかがでしょう。

9ページのところに衛星測位の話が書いてあって、内閣府に一旦運用を移管したという話になっているので、かなり書きぶりがシンプルになっているような気がするんですけども、今回、7年の中期計画ですよ。やはり次期の話とか、あるいは、性能アップみたいな話が当然あるのかというふうにちょっと思ったんですが、この辺の記載は何もなくて、ただ技術をやっていきますしか書いていないんですけども、この測位の話については、7年間のこの中期計画でやはりそれにとどまるような格好になるんでしょうか。

【翁長宇宙通信政策課長】 今、確かに準天頂衛星の「みちびき」は内閣府のほうに移管して、運用を含めて内閣府がやっておりますけれども、その土台になったのは、当然JAXAの技術になります。今、4機体制で動いております、7機体制の目標はありますけれども、衛星の「みちびき」としての次のシステムというのはまだ議論が始まっておりませんので、現時点ではこの書きぶりにとどめておいたほうがいいのか。

それで、また簡素化したのではないかというお話もありましたけれども、8月の評価をしていただいたときの親会のほうで、7年間にするならば、あまりがちがちに書くのではなく、簡易な文章にしておいたほうがいいんじゃないかというご意見もいただいたこともありましたので、簡素化し過ぎるとまた問題はあるんですけれども、そういった面もあろうかと思っております。

【梅比良部会長】 普通に考えると、やはり次期の検討を開始するとかぐらいの話は当然入るのかと思っていたものですから。それすらも書いていなかったのも、ちょっとあれというふうに思いましたもので、コメントさせていただきました。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

資料2と3と4、評価指標の話も含めまして、一応ご確認いただきました。

それでは、ないようでございますので。どうもありがとうございました。

(3) その他

【梅比良部会長】 それでは、特になければ、議題3、その他に移らせていただきたいと思えます。

事務局から説明をお願いいたします。よろしく申し上げます。

【中谷推進官】 本日、提示させていただきました中長期目標の素案、政策体系図及び評価軸に対する意見につきましては、本日、いただきましたご意見のほかにございます場合には、机上配付資料3のご意見記入シートがございますので、こちらにご記入いただきまして、11月24日金曜日の13時までにご提出いただければと思います。

また、このシートにつきましては、電子ファイルにて送付させていただきます。

次回のJAXA部会でございますけれども、12月8日金曜日の15時から予定しております。会場につきましては、決まり次第、ご連絡させていただきたいと思えます。

以上でございます。

【梅比良部会長】 どうもありがとうございました。確認ですけれども、今日ここで意見を言っていたこと以外にあれば書いていただきたいということでよろしいでしょうか。

【翁長宇宙通信政策課長】 それもありますし、今日、ご意見いただいた内容も、改め

てご指摘いただくのももちろん歓迎いたしますので。

【梅比良部会長】 はい、覚えておられましたらぜひお書きいただければと思います。

どうもありがとうございました。

以上で本日の議題は終了となりますが、委員の皆様から何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ないようでございますので、本日のJAXA部会はこれにて閉会とさせていただきます。どうも今日はありがとうございました。